

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年1月29日(2009.1.29)

【公開番号】特開2007-195665(P2007-195665A)

【公開日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【年通号数】公開・登録公報2007-030

【出願番号】特願2006-16194(P2006-16194)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 6 1 F 13/539 (2006.01)

A 6 1 F 13/511 (2006.01)

A 6 1 F 13/53 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/18 3 3 1

A 4 1 B 13/02 R

A 6 1 F 13/18 3 1 0 Z

A 6 1 F 13/18 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月9日(2008.12.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

吸収層及び防漏層を備えた吸収性物品であって、

前記吸収層における肌当接面側には、平面視で、幅方向左側、幅方向右側、長手方向前側及び長手方向後側にそれぞれ左溝、右溝、前溝及び後溝が設けられており、

前記左溝及び前記右溝は、それぞれ幅方向外側に凸に湾曲しており、前記前溝及び前記後溝は、それぞれ長手方向外側に凸に湾曲しており、

前記左溝と前記前溝、該左溝と前記後溝、前記右溝と該前溝、及び該右溝と該後溝は、それぞれ分離しており、前記左溝の前端部及び前記右溝の前端部は、前記前溝の後端部よりも長手方向前側に位置しており、前記左溝の後端部及び前記右溝の後端部は、前記後溝の前端部よりも長手方向後側に位置している吸収性物品。

【請求項 2】

前記左溝の前端部及び前記右溝の前端部は、それぞれ前記前溝の左後端部及び該前溝の右後端部に対し、前側に且つ幅方向内側に位置しており、前記左溝の後端部及び前記右溝の後端部は、それぞれ前記後溝の左前端部及び該後溝の右前端部に対し、後側に且つ幅方向内側に位置している請求項 1 記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記左溝の前端部の内周縁と前記右溝の前端部の内周縁との幅方向間隔は、10～40 mmであり、前記左溝の後端部の内周縁と前記右溝の後端部の内周縁との幅方向間隔は、10～40 mmである請求項 2 記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記前溝の左後端部及び該前溝の右後端部は、それぞれ前記左溝の前端部及び前記右溝の前端部に対し、後側に且つ幅方向内側に位置しており、前記後溝の左前端部及び該後溝の右前端部は、それぞれ前記左溝の後端部及び前記右溝の後端部に対し、前側に且つ幅方

向内側に位置している請求項 1 記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記前溝における左後端部の内周縁と右後端部の内周縁との幅方向間隔は、10～40 mmであり、前記後溝における左前端部の内周縁と右前端部の内周縁との幅方向間隔は、10～40 mmである請求項 4 記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記左溝の前端部及び前記右溝の前端部は、それぞれ前記前溝の左後端部及び該前溝の右後端部に対し、前側に且つ幅方向内側に位置しており、前記後溝の左前端部及び該後溝の右前端部は、それぞれ前記左溝の後端部及び前記右溝の後端部に対し、前側に且つ幅方向内側に位置している請求項 1 記載の吸収性物品。

【請求項 7】

前記左溝の前端部の内周縁と前記右溝の前端部の内周縁との幅方向間隔は、10～40 mmであり、前記後溝における左前端部の内周縁と右前端部の内周縁との幅方向間隔は、10～40 mmである請求項 6 記載の吸収性物品。

【請求項 8】

前記吸収層は、液透過性の表面シート及び液保持性の吸収体を備えており、

前記吸収体の厚みは、平面視で前記左溝と前記右溝とに幅方向に挟まれた領域において 3～30 mmである請求項 1～7 の何れかに記載の吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

本実施形態の生理用ナプキン 1 は、使用前においては、前方部 A と排泄部対向部 B との境界線近傍、及び排泄部対向部 B と後方部 C との境界線近傍を折り線として、図 4 に示すように、3 つ折りに折り畳まれている。使用する際には、タブテープ 8 が外され、折り畳まれている前方部 A 及び後方部 C それぞれが長手方向外側に開かれる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

前溝 53 における左後端部 53A と右後端部 53B との幅方向間隔（図示省略）は、吸収された液を左溝 51 と右溝 52 との間に閉じ込めず、吸収体 4 を有効に利用すると共に、液の拡散を制御する観点から、好ましくは 10～40 mm、更に好ましくは 15～30 mm である。この間隔の好ましい範囲は、後溝 54 における左前端部 54A と右前端部 54B との幅方向間隔 W4〔図 6（b）参照〕にも適用される。